

欧州景気概況(2022年3月)

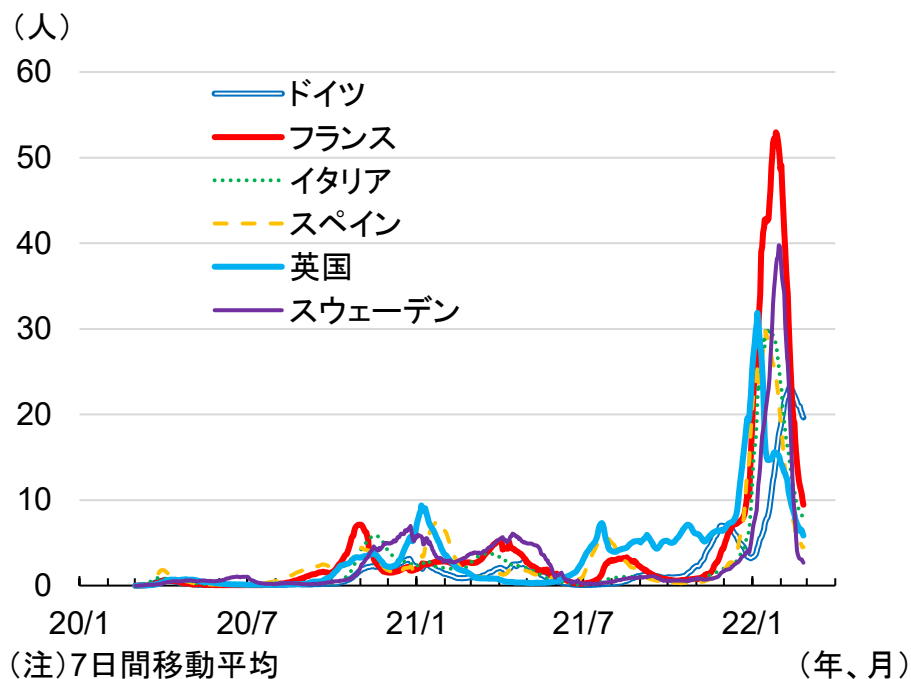
2022年3月2日

調査部 副主任研究員 土田陽介

新型コロナウイルスの感染状況

欧州の新型コロナウイルスの新規感染者数は急減しており、各国で3月にかけて行動規制を段階的に緩和する方向にある。英国のジョンソン首相は既にイングランドで行動制限の全廃に踏み切り、コロナウイルスとの共生を図る方向を打ち出した。まだ感染者の水準が比較的多いドイツでも、段階的な緩和が模索されている。

人口一人当たりの新規感染者数



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)及び英国民保健サービス(NHS)、国際保健機関(WHO)

主要国の行動制限の概要

国名	内容
ドイツ	2/16に第一段階の緩和、3/4以降に第二段階、3/20以降に第三段階の緩和を予定。第三段階で交通機関や公共施設でのマスク着用義務を除き、原則として行動制限を全面廃止。
フランス	2/16に第二段階の緩和で、ナイトクラブの営業やイベントの再開などを実施。2/28にレストランや娯楽施設などワクチンパスが適用される施設内でのマスク着用義務が解除。
イタリア	非常事態は3月末まで。2/28時点ではホワイトゾーンが5州1自治県、イエローゾーンが14州1自治県。
英国	2/24にイングランドで行動規制を全て撤廃。無料の大規模検査も4/1で停止。

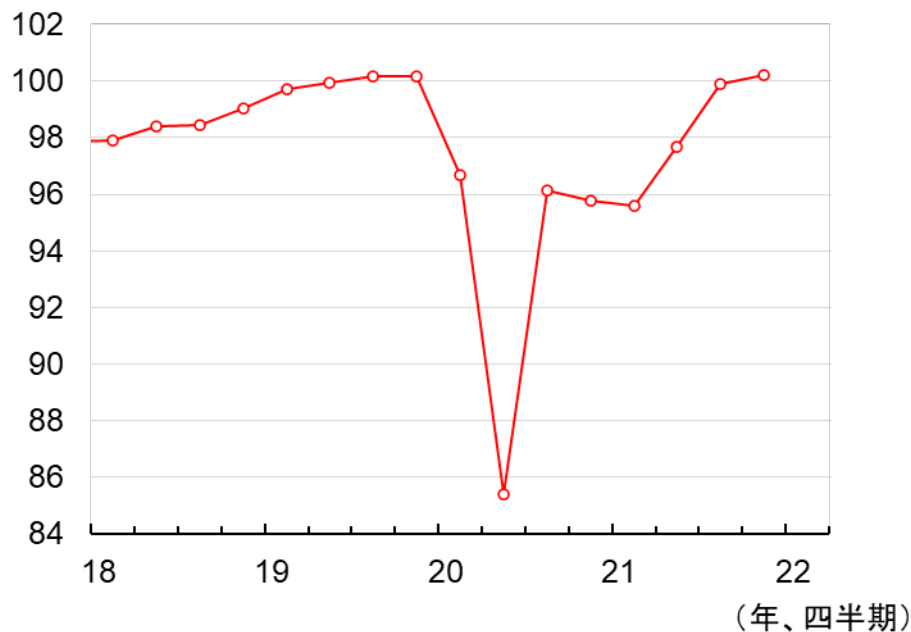
(出所) 各種報道

ユーロ圏景気概況① 景気は回復している

ユーロ圏の2021年10-12月期の実質GDP(改定値)は前期比+0.3%と増勢が失速したが、水準はコロナショック前を上回った。一方で、2月の景況感指数は114.0と1月(112.7)よりも上昇したが、均した動きは低迷している。オミクロン株の感染拡大が景況感の下振れにつながったと考えられる。

実質GDP

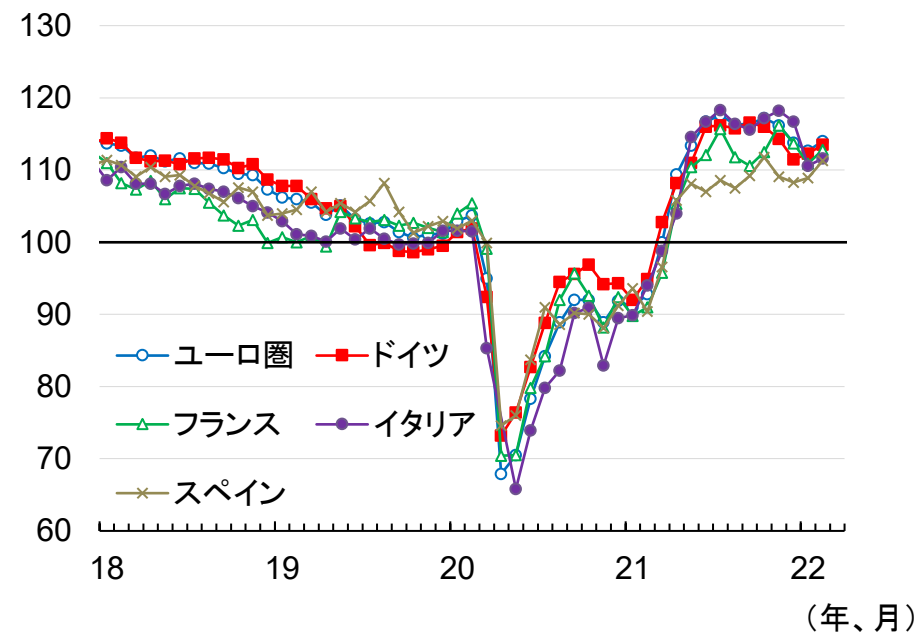
(2019年=100、季調済)



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

(長期平均=100)

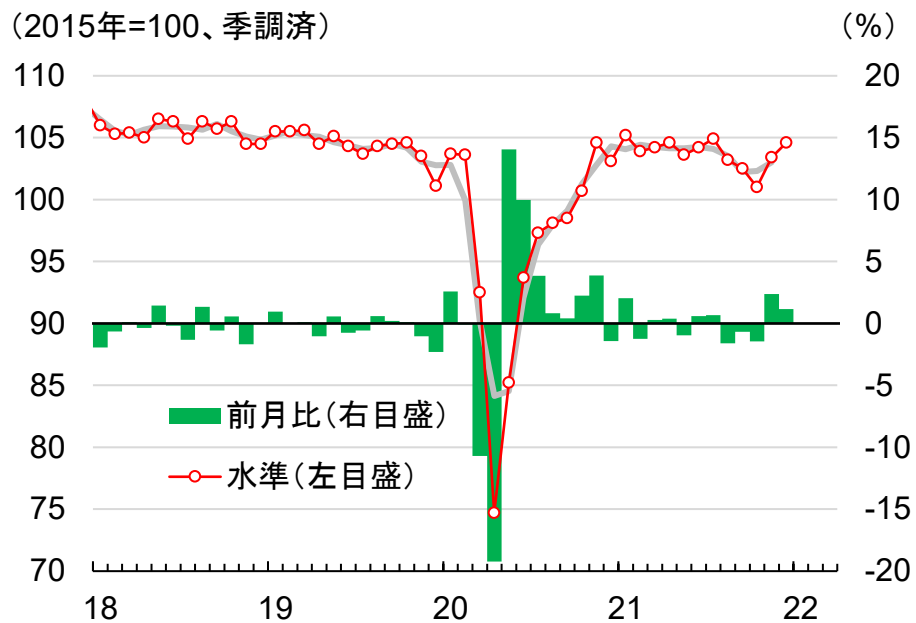


(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は回復

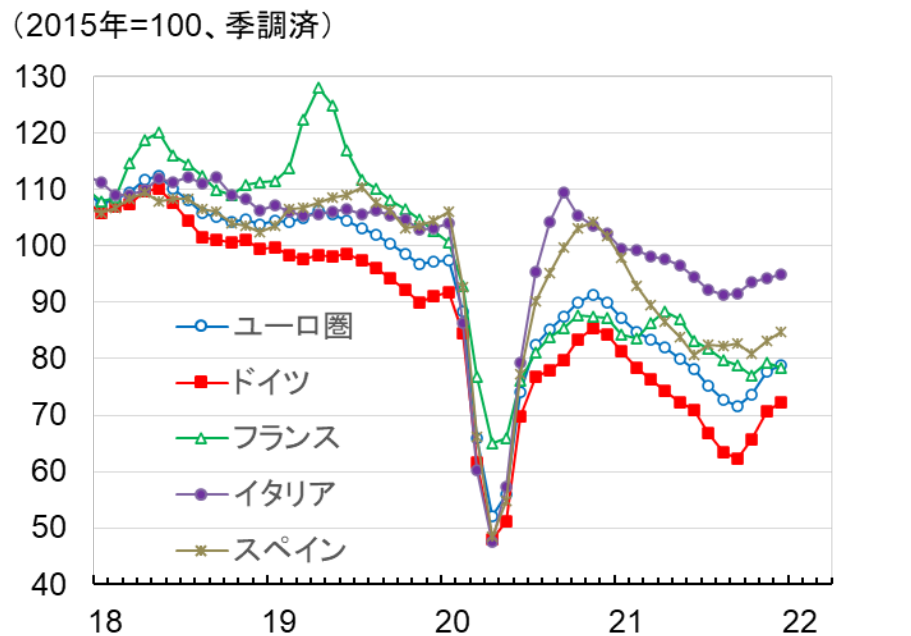
ユーロ圏の12月の鉱工業生産は前月比+1.2%と2ヶ月連続で増加、回復基調を維持している。鉱工業生産ベースで見た自動車生産台数も、半導体不足の解消などから各国で回復が続いている。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

自動車生産台数(鉱工業生産ベース)

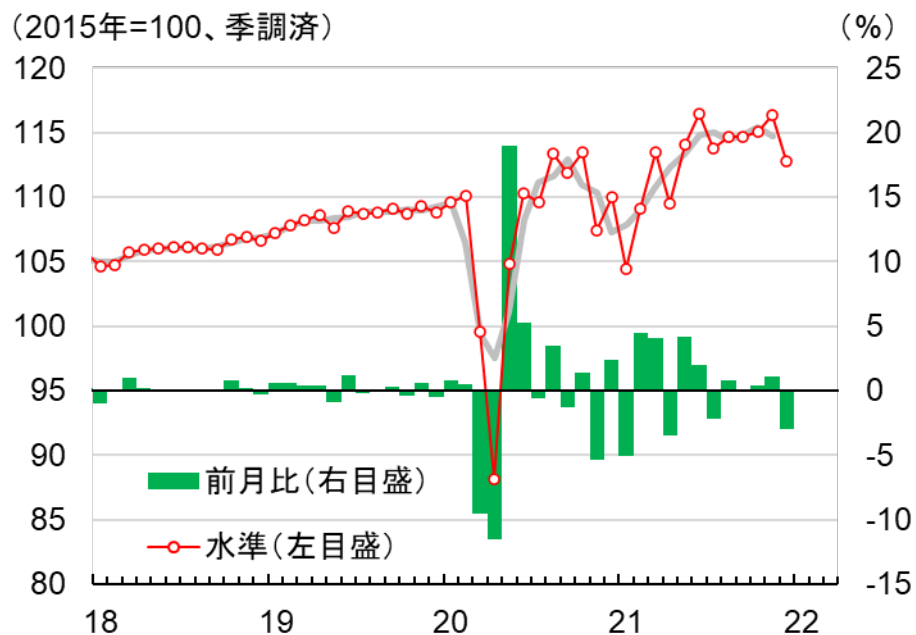


(注) 3ヶ月後方移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は横ばい

ユーロ圏の12月の小売数量は前月比-3.0%と急減し、均した動きも横ばい圏での推移にとどまった。一方で、2022年1月の新車販売台数は前月比-5.4%の年率757万台と10月以来の減少、均した動きは横ばいとなった。車種別にはEV（電気自動車）などの電動車が堅調である模様。

小売数量



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

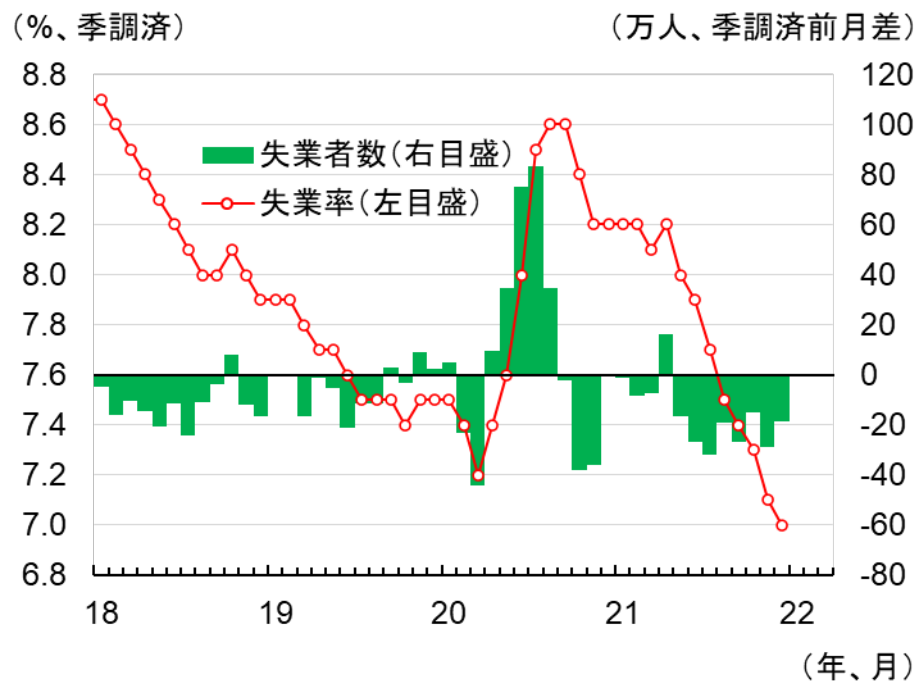


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行(ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用情勢は改善

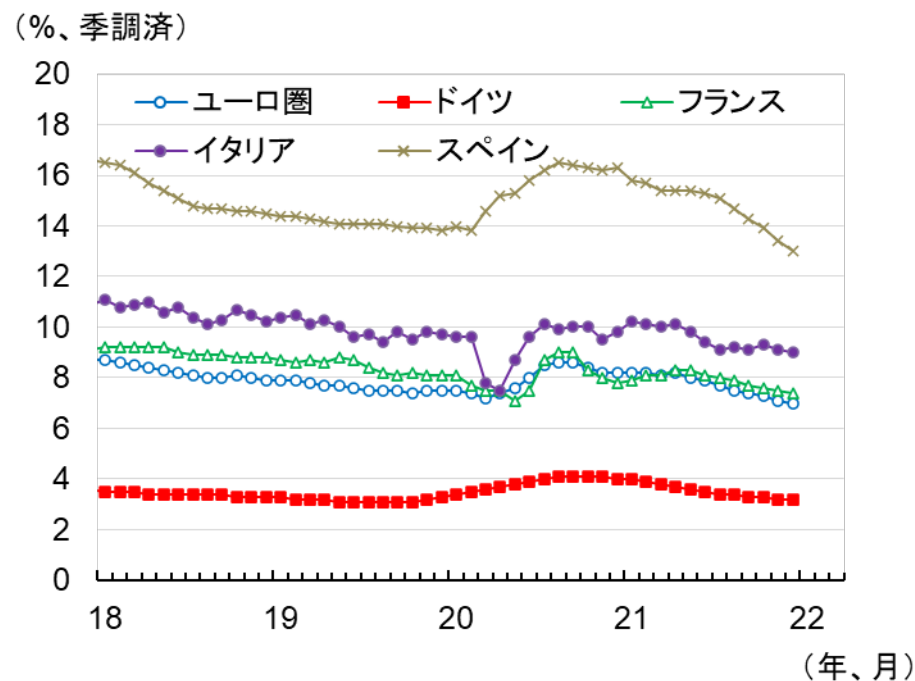
ユーロ圏の12月の雇用統計では、失業率が7.0%と8ヶ月連続で低下、失業者数は前月比18.5万人減とマイナス幅が再び縮小も、雇用は改善している。主要国別に失業率を見ると、各国とも緩やかな低下基調を保っているが、ドイツやイタリアでは下げ止まりの動きもみられる。

失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

主要国別失業率

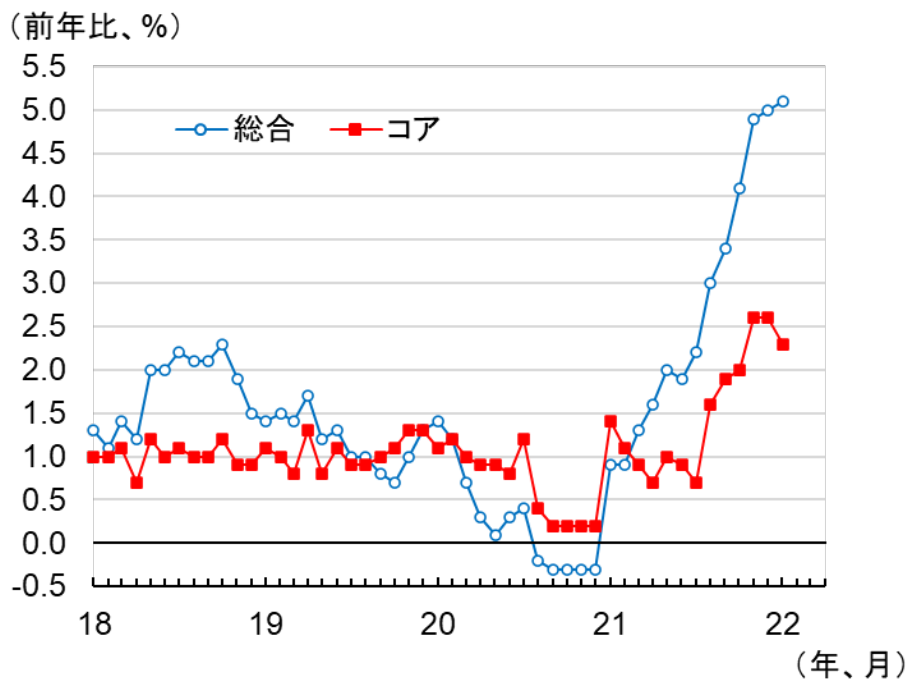


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ 物価はインフレが加速

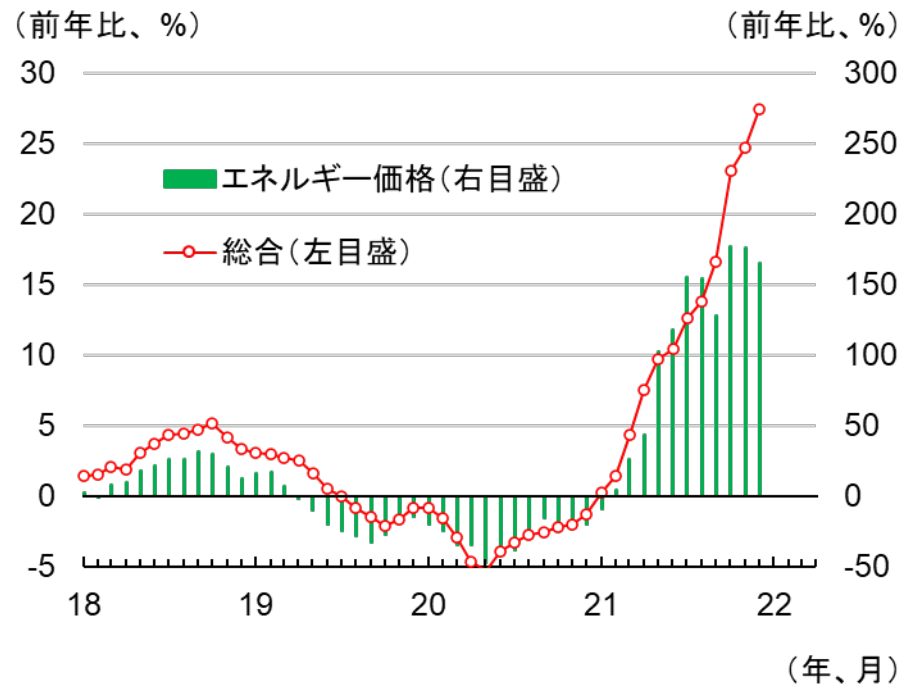
ユーロ圏の2022年1月の消費者物価は前年比+5.1%と上昇が小幅に加速した。先行指標である生産者物価は2021年12月時点で前年比+27.4%と、伸びの加速が続いた。うちエネルギー価格は同+165.2%と、高い伸び率を維持している。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価



(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは22年3月で危機対応策を終了へ

ECBは2月3日の理事会で、政策金利を既往の水準に据え置くとともに、資産購入策に関してもこれまでの方針を据え置いた。会見後の記者会見でラガルドECB総裁は、物価動向次第では12月の理事会で決めた先行きの金融政策の修正プロセスに関して見直す可能性を示唆した。次回理事会は3月10日を予定。

ECBの金融緩和パッケージ

ECBの2020年12月理事会での決定の概要

政策金利の据え置き

主要政策金利を既往の年0.00%に、また貸出金利を年0.25%に、預金金利を年-0.50%にそれぞれ据え置き。

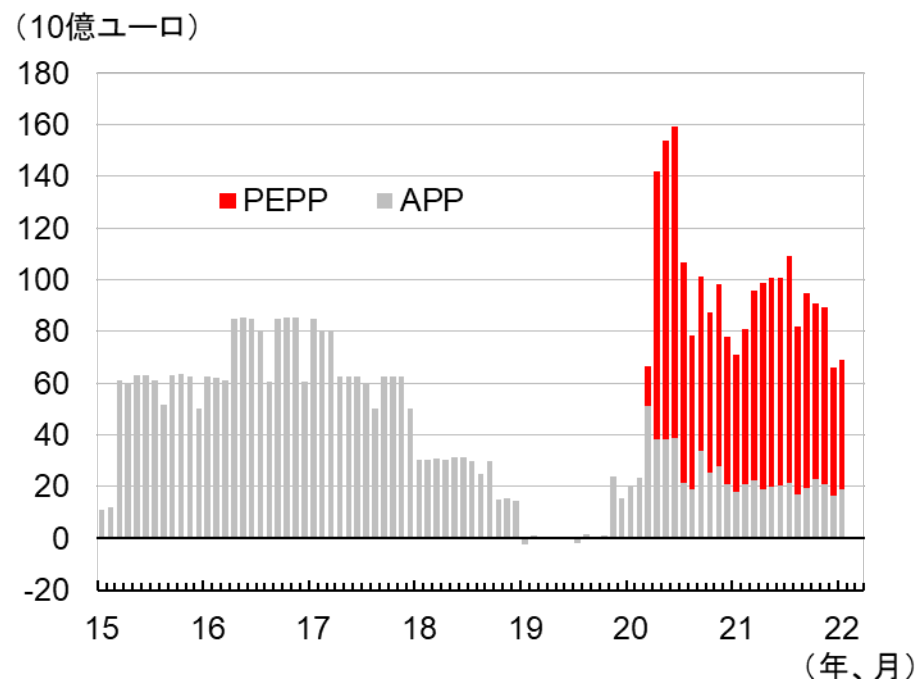
資産購入策の修正

PEPPを2022年3月に終了、再投資は2023年末から2024年末まで延長。

現在月200億ユーロで実施しているAPPを2022年4-6月期は月額400億ユーロに増額。7-9月期は300億ユーロに減額した後、10月以降は利上げが肯定される環境まで200億ユーロで購入を継続。再投資は最初の利上げ後も実施する方針。

(出所) 欧州中央銀行(ECB)

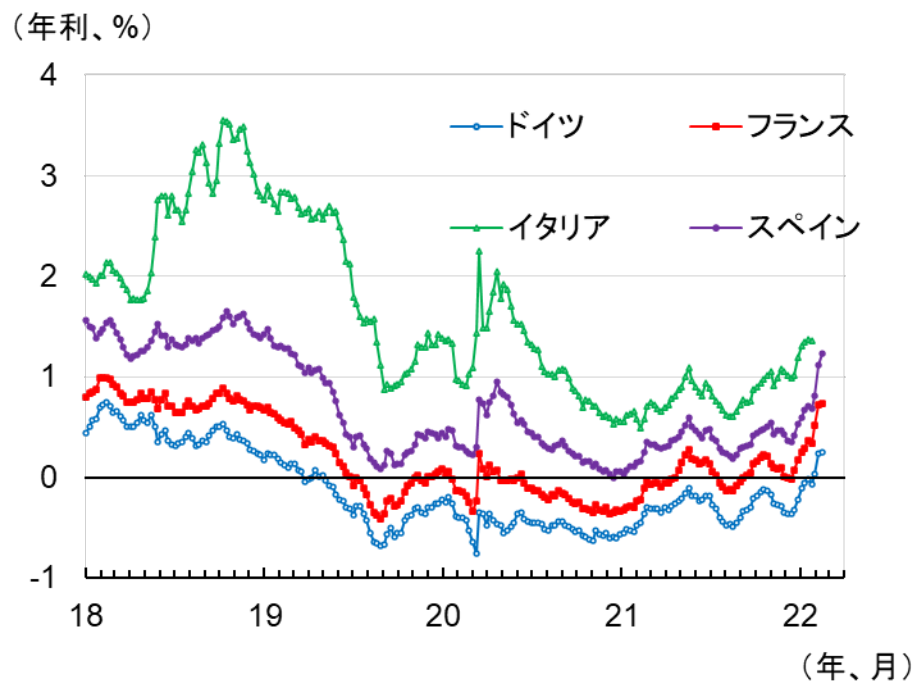
資産購入の推移



ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価は下落

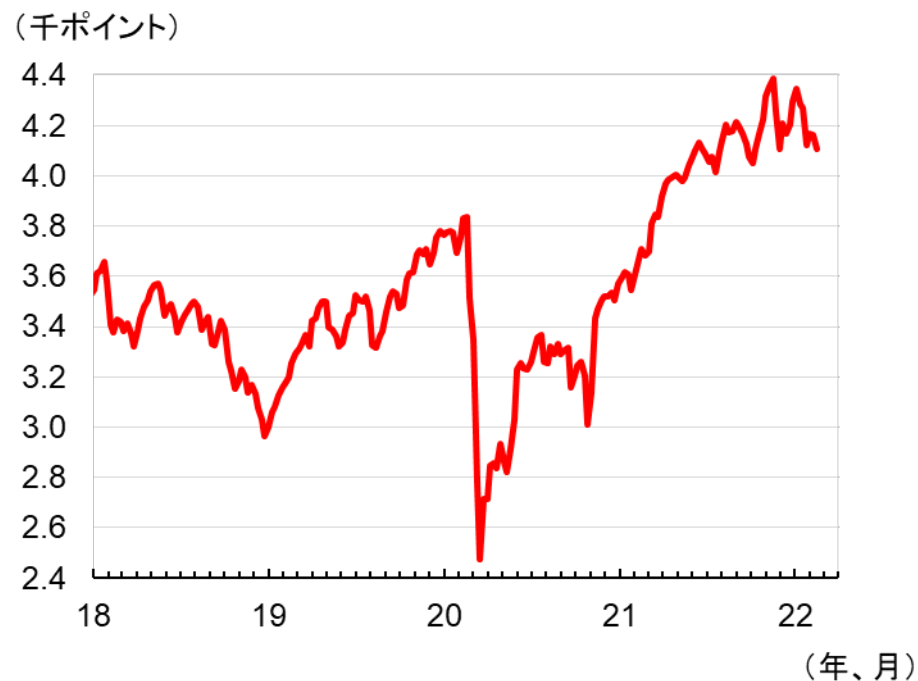
2月のユーロ圏の長期金利は上昇した。米連邦準備制度理事会（FRB）や欧州中銀（ECB）が金融緩和の回収に向かっていることが金利を押し上げたが、ロシアのウクライナ侵攻が重荷となった。一方で、2月の株価は下落した。金融緩和の回収やロシアのウクライナ侵攻が嫌気された。

長期金利



(出所)ECB

株価(Eurostoxx50)

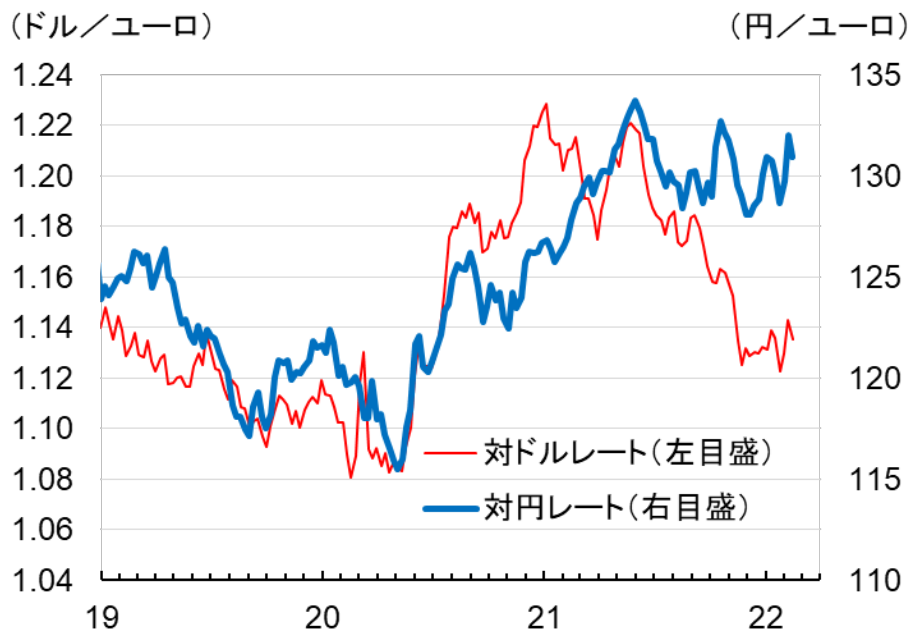


(出所)STOXX

ユーロ圏景気概況⑧ 対ドル・対円で横ばい

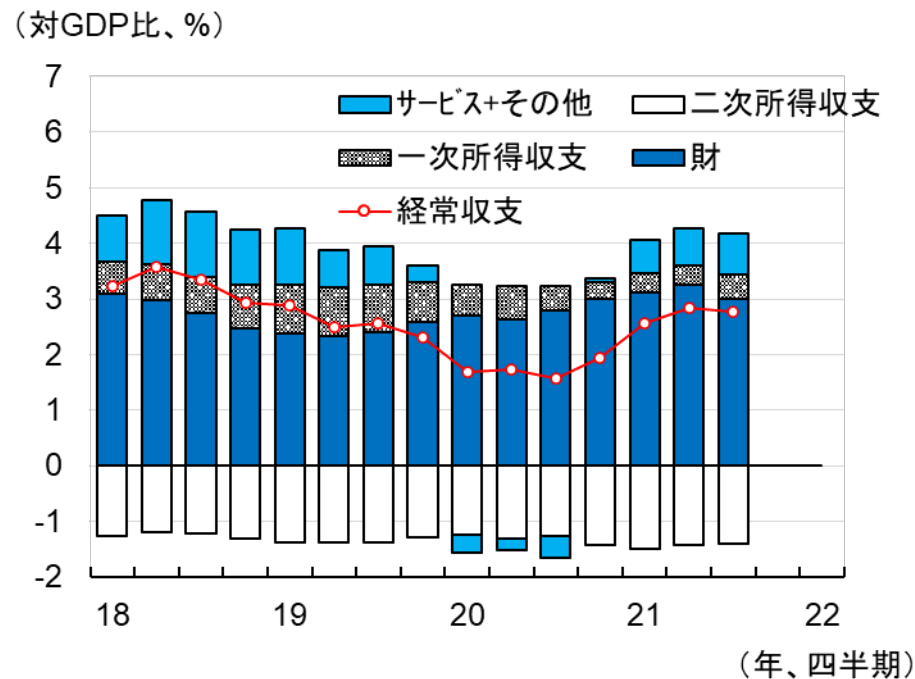
2月のユーロ相場は対ドル・対円で横ばい。月前半は欧州中銀(ECB)による政策正常化の前倒し観測やウクライナ情勢好転への期待からユーロが買われた。しかし月後半は、ロシアによるウクライナ侵攻への警戒感が高まりユーロ安が進んだ。

ユーロ相場



(注)週次レート
(出所)ECB

国際収支



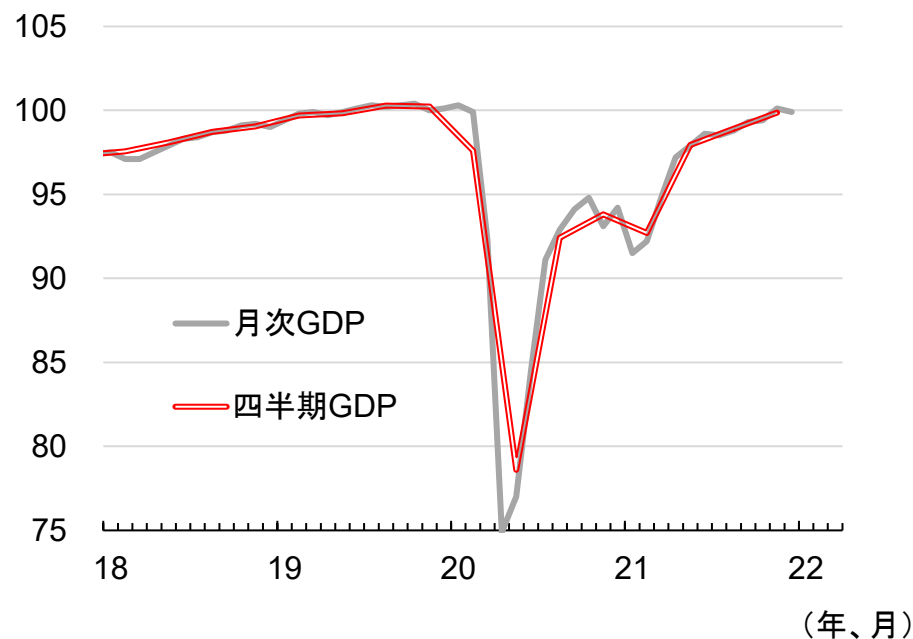
(出所)ECB

英国景気概況① 景気は回復している

英国の2021年10-12月期の実質GDP(速報値)は前期比+1.0%と、7-9月期と同じ伸び率を維持した。産業別(GVA)には、サービス業が同+1.2%と堅調を維持し、景気の拡大をけん引した。なお最新12月の月次実質GDPは前月比-0.2%と7月以来の減少に転じており、オミクロン株の流行で年末にかけて景気が失速した様相がうかがえる。

実質GDP

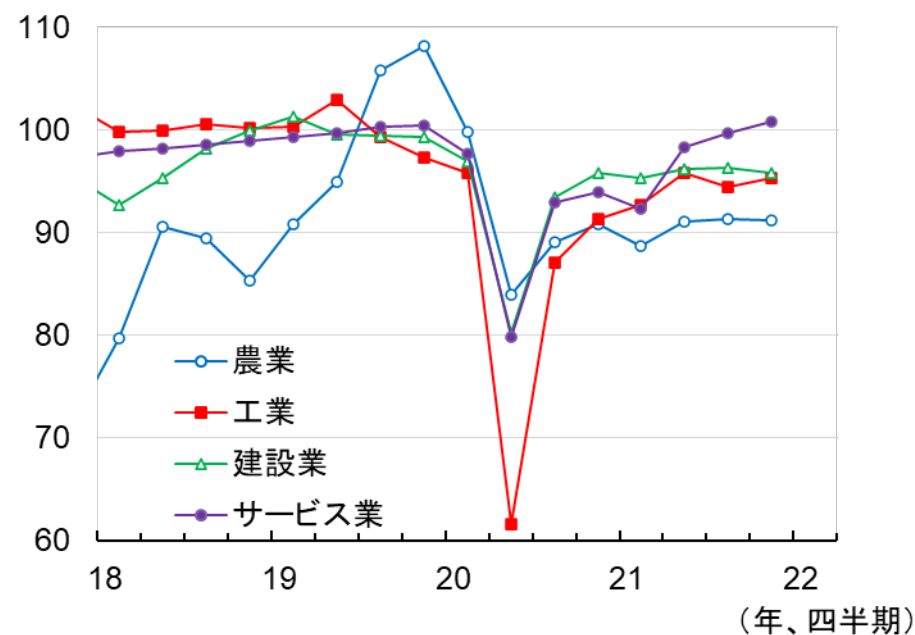
(2019年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

実質GVA(粗付加価値)

(2019年=100、季調済)

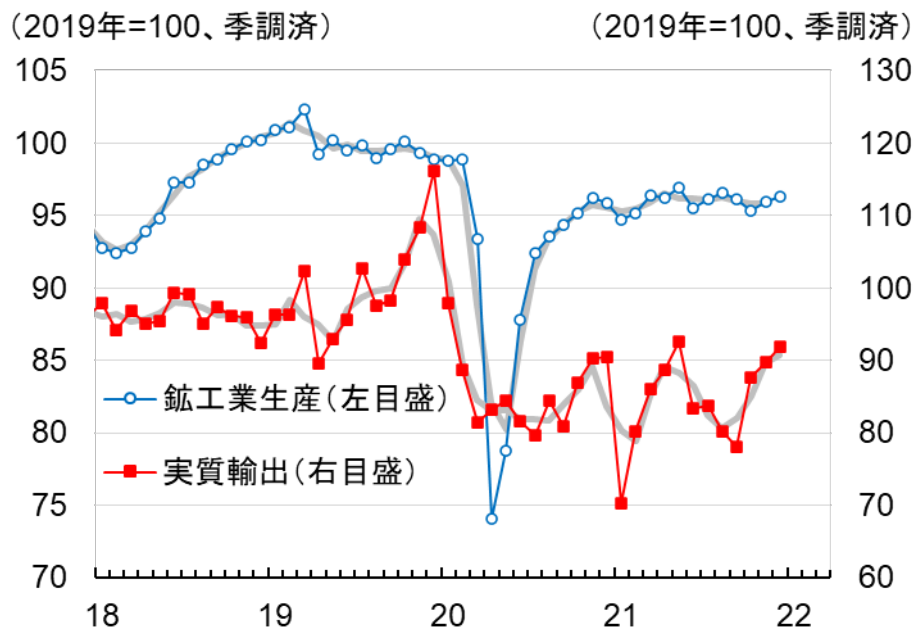


(出所)ONS

英国景気概況② 生産は横ばい

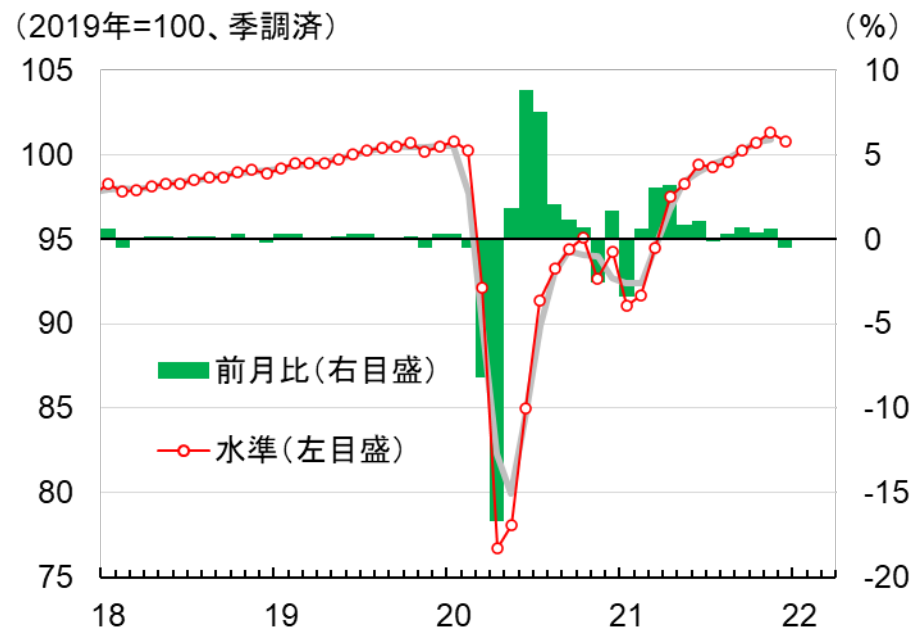
英国の12月の鉱工業生産は前月比+0.3%と増加が続いたが、均した動きは横ばい。一方で、同月の実質輸出も同+2.4%と増加が続き、均した動きも回復基調を維持。一方で、12月のサービス生産は前月比-0.5%と、宿泊飲食などの不調を受けて7月以来の減少に転じた。

生産と輸出



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

サービス業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況③ 消費は低迷

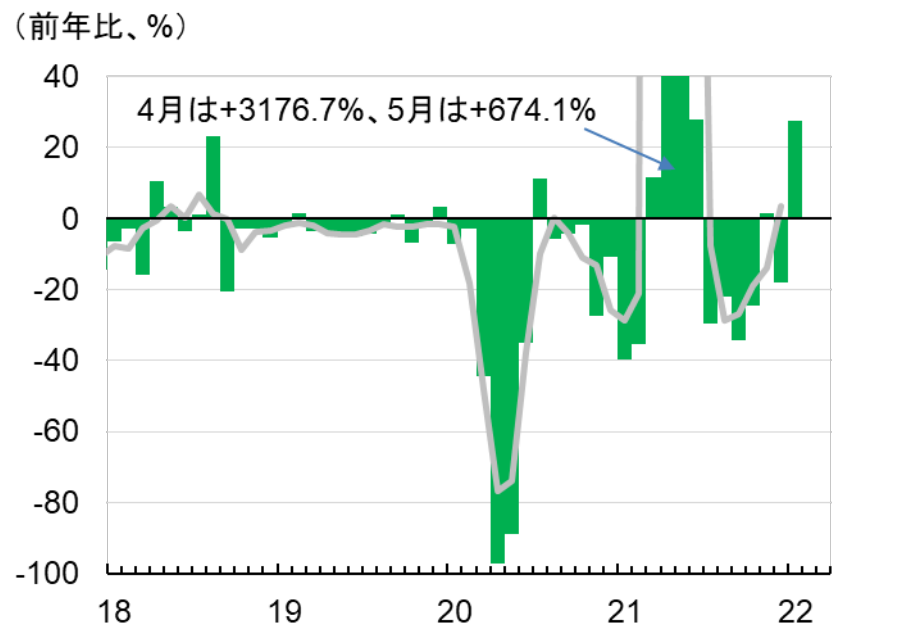
英国の1月の小売数量(除く石油)は前月比+1.7%と再び増加も、均した動きは減少基調で推移。一方、同月の新車販売台数(乗用車)は前年比+27.5%(11.5万台)と再び前年水準を上回り、均した動きもプラス圏内に復した。

小売数量(除く石油)



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

新車販売台数(乗用車)

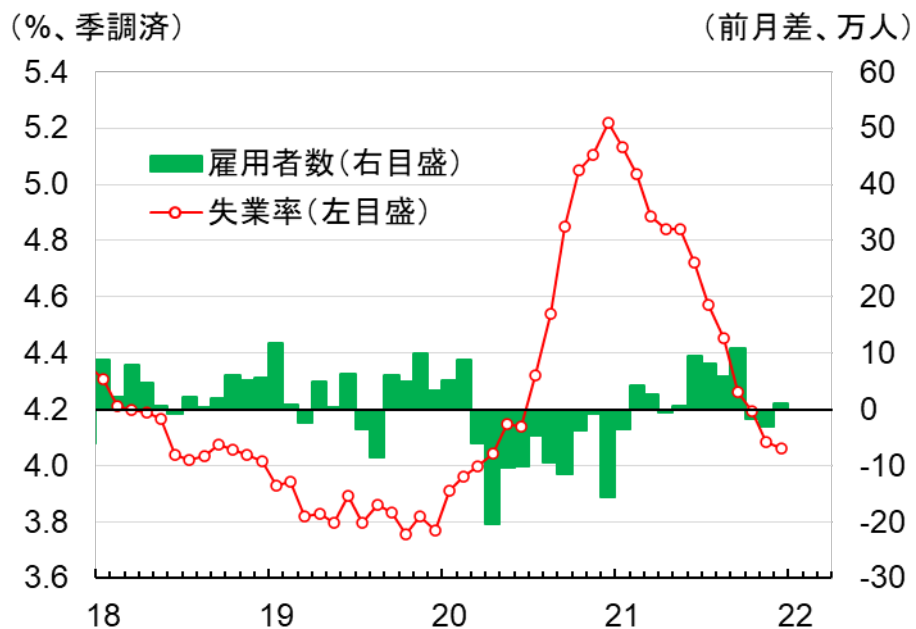


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況④ 雇用は改善が足踏み

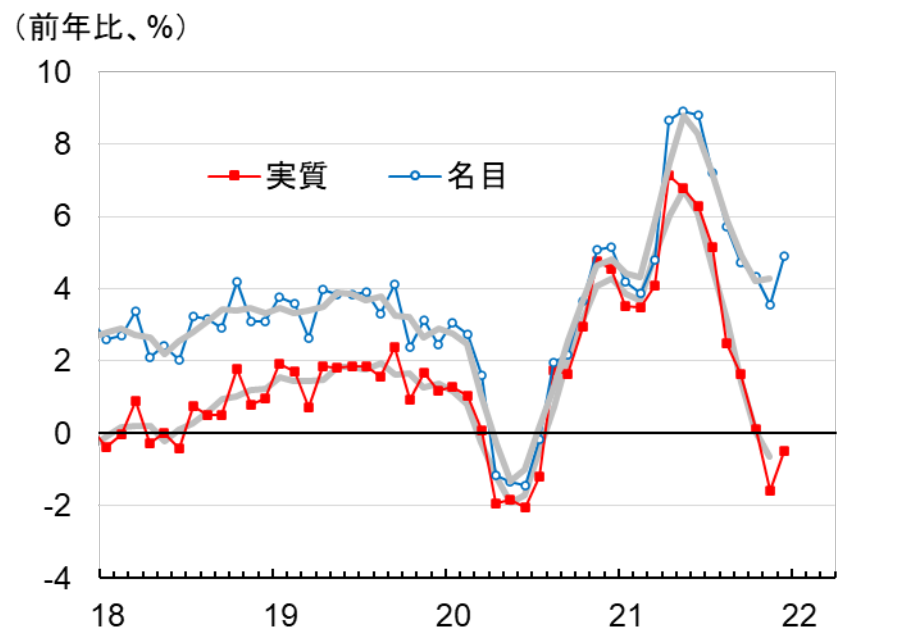
英国の2021年12月の雇用統計(3ヶ月後方移動平均)は、失業率が4.1%と横ばいだった一方で、雇用者数も前月比1.0万人増にとどまるなど、雇用情勢は改善が足踏みしている。賃金の増勢は名目ベースでは伸びの鈍化に歯止めがかかり、また消費者物価で実質化した実質ベースもマイナス幅も縮小した。

雇用統計



(注) 3ヶ月間の平均値
(出所)ONS

平均賃金(週給)

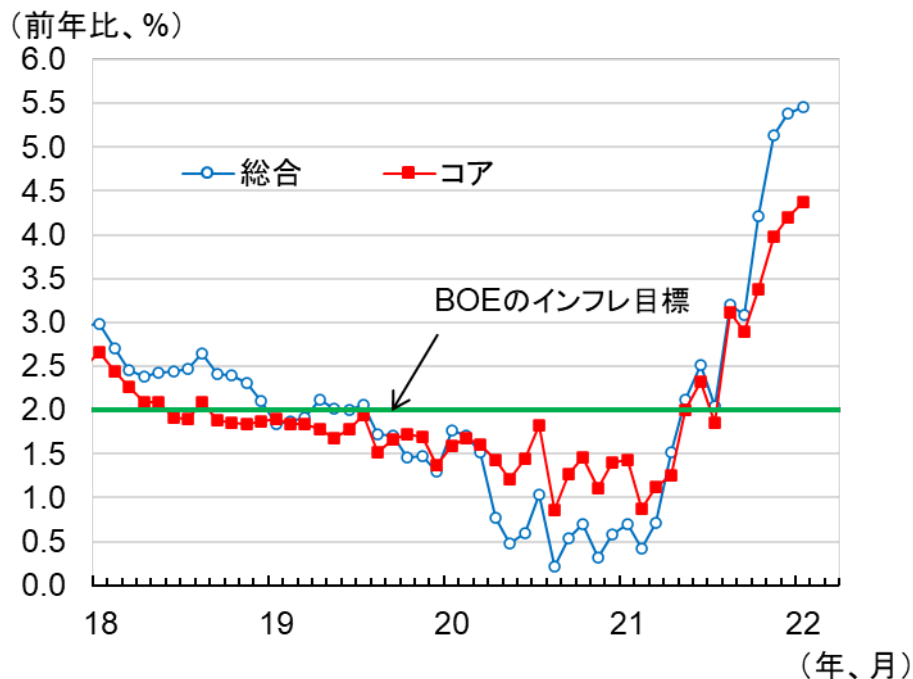


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況⑤ 物価はインフレが加速

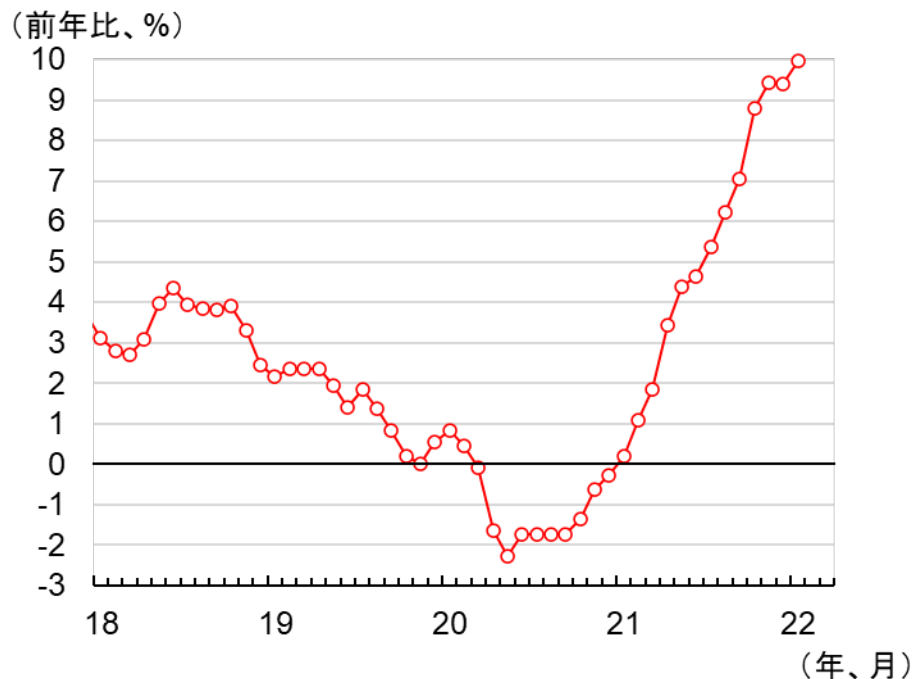
英国の1月の消費者物価は総合指数ベースで前年比+5.5%と伸びの加速が続いており、イングランド銀行(BOE、中央銀行)のインフレ目標を大きく上回っている。先行指標である生産者物価は前年比+10.0%と前月(同+9.4%)から伸び幅がわずかに縮小も、高止まりしている。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(投入価格、除く関税)

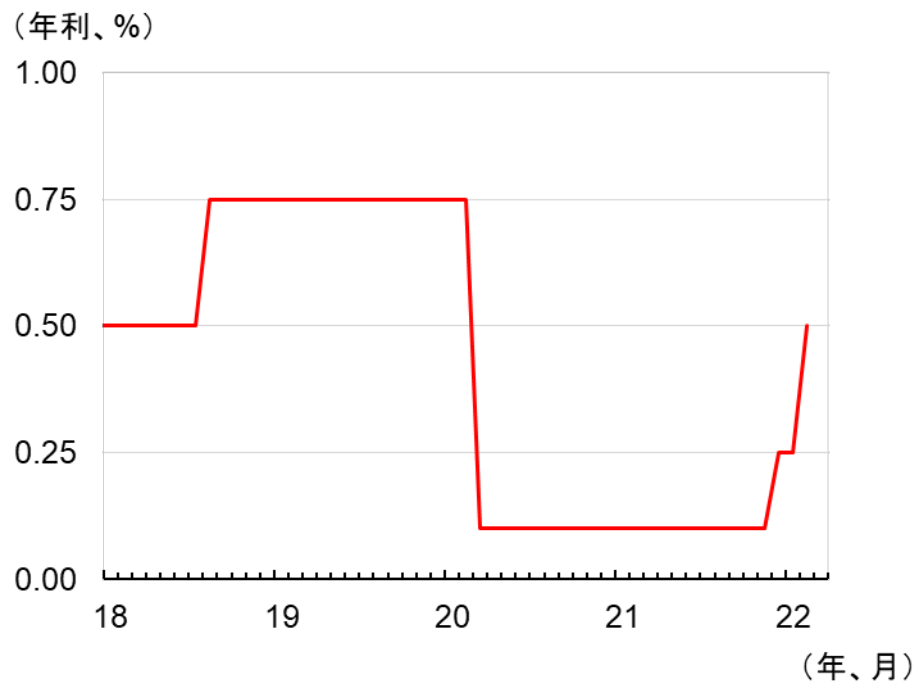


(出所)ONS

英国景気概況⑥ 注目されるBOEのバランスシート圧縮のタイミング

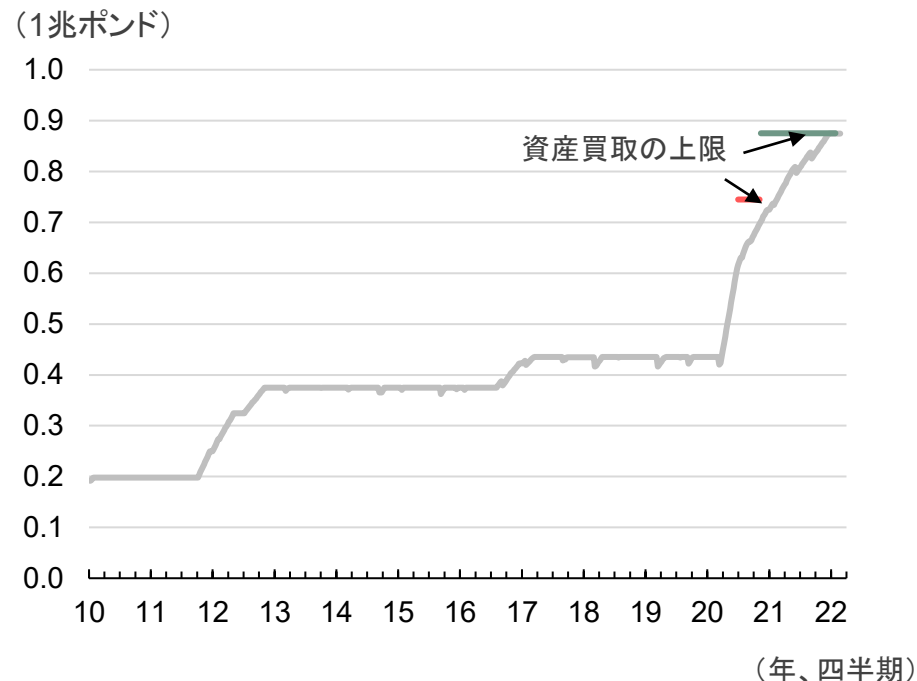
イングランド銀行(BOE)は2月3日にMPCを開催、政策金利を0.25%から0.5%に引き上げるとともに、既往の資産購入プログラムで購入した国債の再投資を3月に停止すると発表した。今後政策金利が1%に達した場合、BOEは保有資産の積極的な市場売却を模索する予定。次回会合は3月17日を予定。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

英中銀の国債保有高

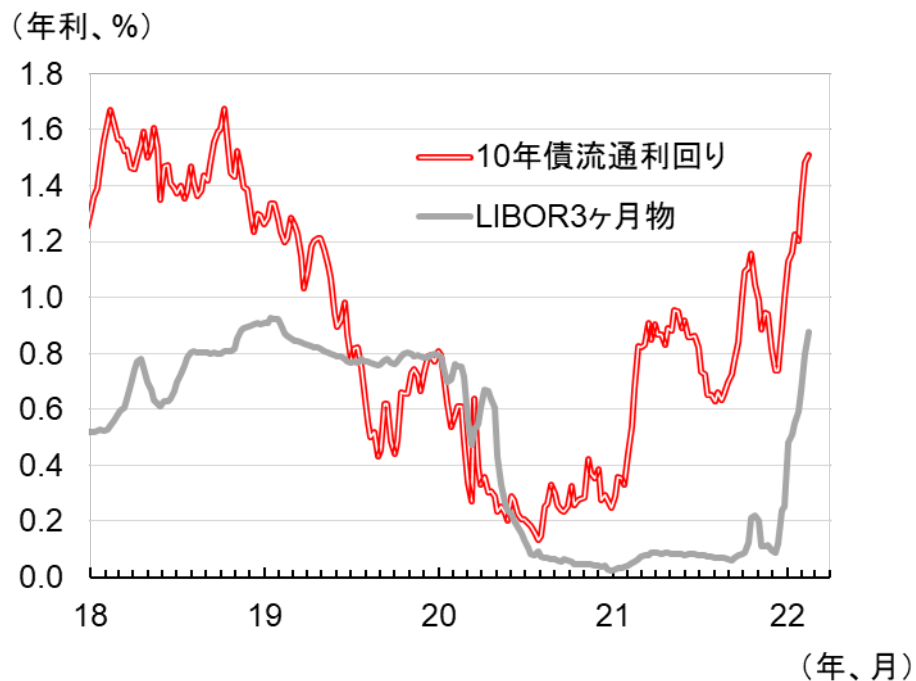


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価は下落

2月の英国の長期金利は上昇した。米連銀(FRB)が資産購入の段階的減額(テーパリング)に臨んでいることに加えて、BOEが追加利上げを実施したことが金利の上昇圧力になった。一方で、株価(FT100指数)は下落した。原油価格の上昇が鉱山株を、金利の上昇が銀行株を下支えしたが、ロシアのウクライナ侵攻が相場全体の重荷になった。

金利



(出所)BOE

株価(FT100指数)

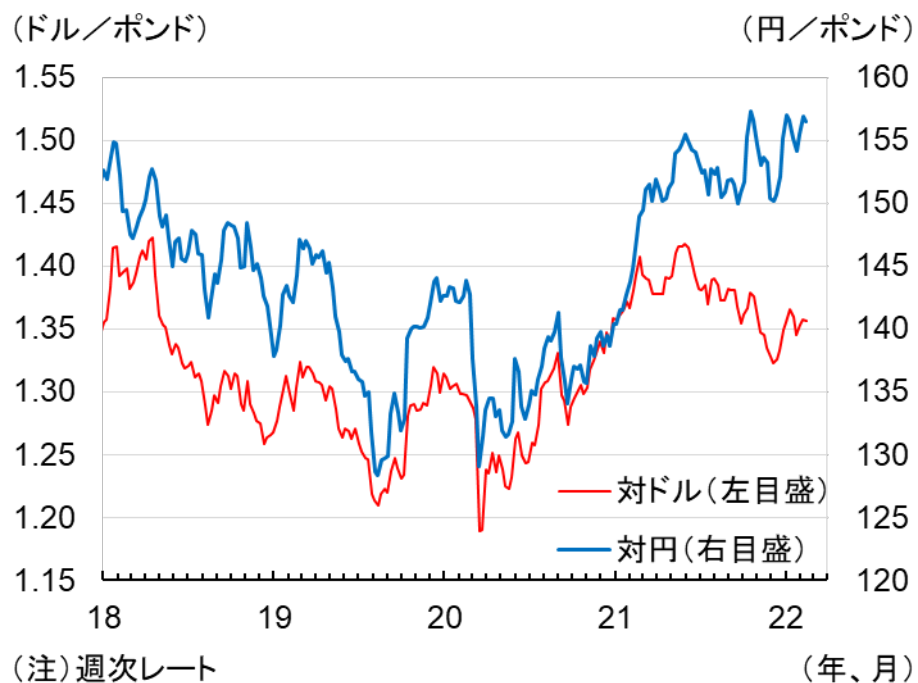


(出所)BOE

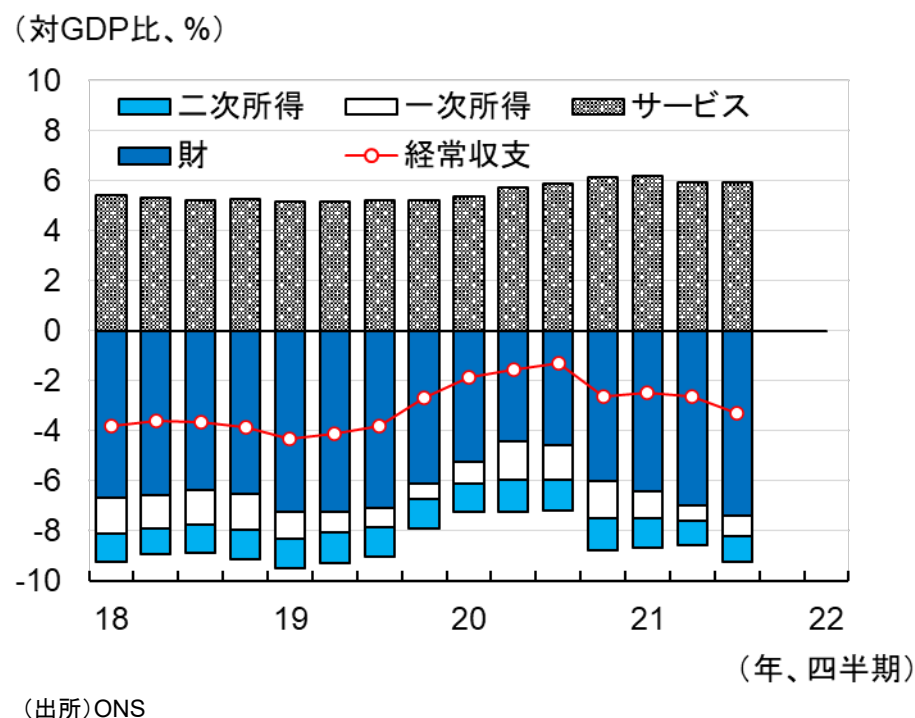
英国景気概況⑧ 対ドル・対円でポンド安

2月のポンド相場は対ドル・対円で下落した。ロシアのウクライナ侵攻を受けて高リスク通貨であるポンドに対する売り圧力が強まった。国際収支は貿易収支の赤字が拡大しており、実需面からのポンド買い圧力は弱まっていると判断される。

ポンド相場



国際収支



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 土田陽介 TEL:03-6733-1628 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください